

## 新興ウイルス感染症に対する創薬

安田 二郎

(長崎大学感染症共同研究拠点)

直近半世紀の間に新たに人類の脅威として出現した新興ウイルス感染症の数は30を超える。それらの中には、エボラウイルス病やラッサ熱など極めて高い致死率を示すものも少なくないが、これらの新興ウイルス感染症に対する治療薬（抗ウイルス剤）の開発は遅れている。

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）は、2013年以降わが国でも毎年患者が報告されている新興ウイルス感染症で致死率も極めて高い。SFTSに対する確立された治療法はなく、ワクチンや抗ウイルス剤も現時点では存在しない。我々は、現在複数の手法を使って、SFTSウイルスの増殖を阻害する化合物のスクリーニングを行っており、抗SFTS薬の開発を目指している。今回のセミナーではその成果の一部を紹介する。